

タイトル	平成30年度 一般入試 (前期日程) 教育学部美術専攻 芸術・表現系小論文問題 (美術)
評価のポイント	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 提示されたテーマについての考察が、自分の経験や知識・感性に照らし合わせて具体的に行われているか。</li> <li>2. 提示された対象 (作者、作品など) に対する細やかな観察と考察に基づく記述が行われているか。</li> <li>3. 美術や関連する社会の歴史や現状に関する基礎的な知識についての言及や考察が行われているか。</li> <li>4. 問題文の指示を守った方法で表記が行われているか。論旨が明快で、誤字脱字がなく、文章表現に乱れがないか。規定の文字数に対して適切な量の記述を行っているか。</li> </ol>
解答例	<p>この作品の第一印象は「清々しい朝」のイメージです。青緑色の草原の中心に灰色みを帯びた一本のあぜ道が通り、その先に浅葱色の山々が連なります。道はやや上り坂でしょうか、前方へとまっすぐに伸びて右方向へ。その先に続く気配を感じさせます。単純化を極めた画面構成の中に日本画の伝統的な表現様式と遠近法に象徴される西洋的な視点が融合され、東山芸術の新機軸が示されています。</p> <p>作者はこれから歩む道を前にし、未来を見据えようとしたのでしょうか。さらに時代は1950年、戦後の復興最中にある日本の行く道と、日本画による風景画家として出発する我が身を重ねて捉えたのかもしれませんが。</p> <p>同時に、本作から高村光太郎の詩「道程」における「僕の前に道はない 僕の後ろに道は出来る」という文言を思い起こしました。すると、作品の道が、私自身が歩んだ履歴としての道にも思えてきます。今に至るまで、様々な人との出会いや経験を通じて、多くのことを学んできました。なかでも中学校でお世話になった美術の先生は、私が美術教育の道を目指すきっかけになった恩師の一人です。先生には、美術の制作や鑑賞を通して自身を見つめること、そして仲間と共に高め合うことの喜びを教えてくださいました。</p> <p>これからは、今に至る私の道への感謝を胸に、さらに広がる世界への一歩を踏み出したいと思います。「清々しい朝」のイメージを背景としながら、自分自身で納得のいく道を創り続けていきたいです。</p>